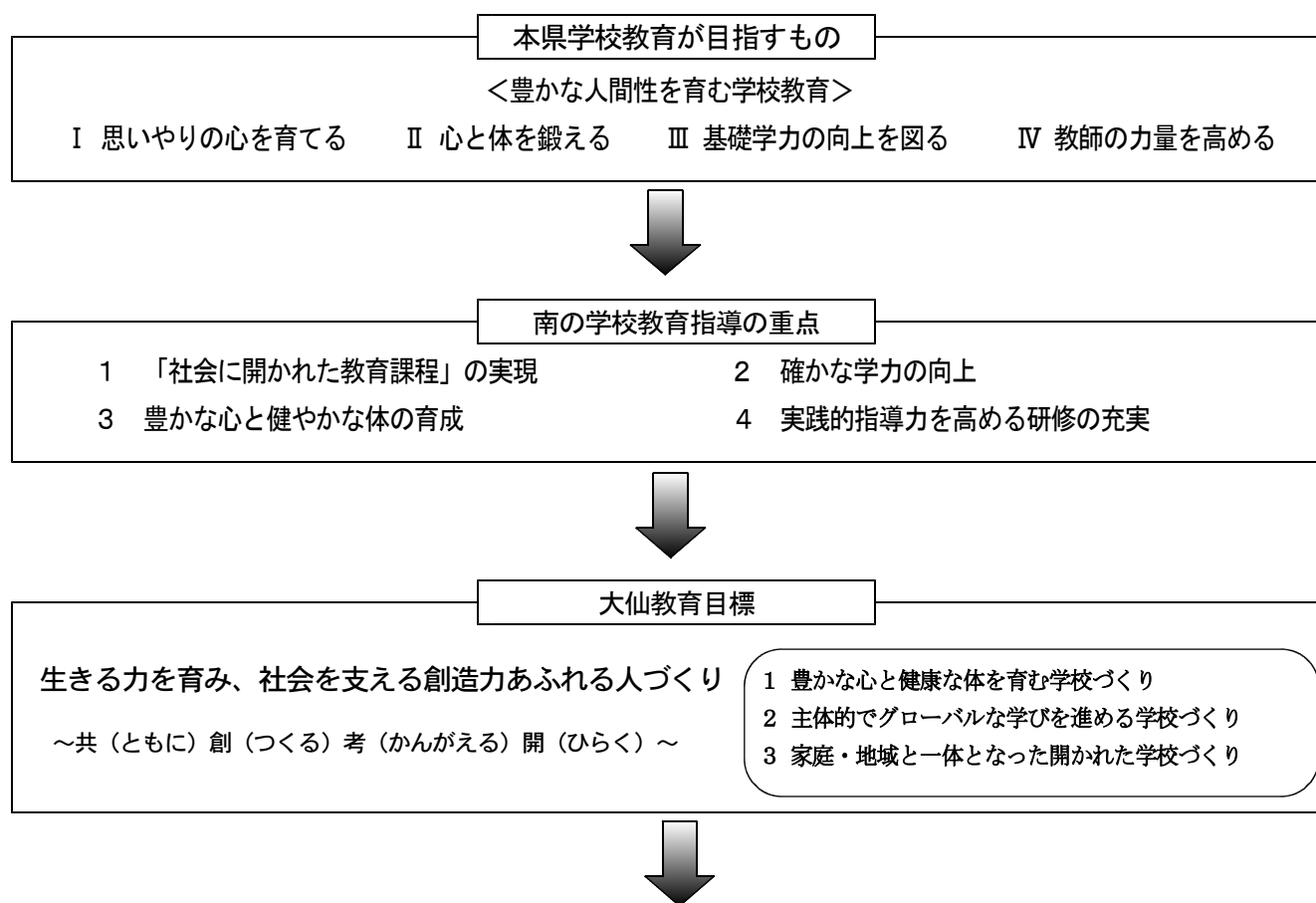


令和5年度 太田北小学校学校経営



1 学校の概況

地域の様子

太田地区は、田沢疎水、圃場整備事業により、食糧生産基地として発展してきた純農村地域である。真木・真昼県立自然公園等、自然環境にも恵まれている。地区をあげて、緑化・花壇環境整備にも力を入れている。本校も、全県花壇コンクールで多くの受賞歴がある。また、太田地区の3つの小学校の交流活動を中心に、幼保中高及び行政とのかかわりを大事にしている。

児童の様子

素直で明るく、何事にも一生懸命な子ども達である。平成19年度より[全校音楽劇]に取り組み、今年は17年目を迎える。表現力や思考力を育てながら、達成感・自己肯定感の醸成を目指している。少人数のため人間関係が固定的になりやすいので、異学年・他校との交流を意図的に行いながら、体験活動の拡大を図っている。そして、様々な経験を積むためにも「チャレンジ」する気持ちを育てたいと考えている。

地域・保護者の様子

保護者や地域の学校に対する関心や期待はとても大きく、諸行事やPTA活動にも積極的に協力的である。また、地域の方々も子どもたちに気軽に声をかけ、温かく見守ってくれている。特色ある教育活動の一つである「全校音楽劇」も、全面的にバックアップしてくれている。

国見の子を地域と学校で共に育てるという視点で、昨年度から学校運営協議会（コミュニティ・スクール）が設置され、充実した「地域学校協働活動」が進められている。

2 学校教育目標

チャレンジ！ 夢に向かって ～地域と共に 笑顔の「国見の子」の育成～

3 目指す学校像 ☆チャレンジ（Challenge）&笑顔（Smile）

（1）一人一人が居心地のよい学校

- ・徹底した基本的な生活習慣の定着 早寝・早起き・朝ご飯 → 笑顔の「国見の子」
※授業中の姿勢（特に座り方）や話を聞く態度
- ・縦割り活動の重視（異学年とのつながり）
- ・良好な友人関係の構築（言葉づかい、態度）

（2）一人一人の児童に分かる授業が保障されている学校

- ・学習ルールの徹底（共通実践事項）
- ・見通しと振り返りの習慣化
- ・考えを共有する時間の確保
- ・聴く力と質問できる力の醸成（音楽劇を生かす → 表情、姿勢、場面に応じた声量）
- ・G I G Aスクール構想の推進 授業での活用や持ち帰りでの活用
※G I G Aスクール先進校としての取組＋情報モラル教育の充実：低年齢化への対応
- ・複式学級の授業研究（これから複式学級が増えるので先進的な取り組みを）

（3）保護者・地域との連携を大切にする開かれた学校（学校・家庭・地域の連携協働）

【地域学校協働活動の充実】

【学校運営協議会（コミュニティ・スクール）複数回開催、学校評価の実施】

- ・保護者及び地域での学校教育目標の共有→学校運営協議会の開催（4月・2月）
- ・熟議の実施
※学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員、公民館等
※学校報「チャレンジ」の発行 校内にSDGsコーナーの設置

4 目指す姿

こんな学校に

- ①子どもたちが笑顔で元気に登校する学校
- ②職員一人一人がよさを発揮し、全員が協力し合う学校
- ③保護者・地域の方々に信頼される学校

こんな児童に

- ①やさしく（やさしく思いやりのある子ども）
- ②かしこく（進んで学び、伝え合い、考えを深める子ども）
- ③たくましく（心身をきたえ、何事にもチャレンジする子ども）

こんな教師に

- ①子どもにあった新たな指導にチャレンジする教師
- ②笑顔で接し、コミュニケーションを大切にする教師
- ③子どもに寄り添い、心が通い合う教師

5 今年度最重点項目

『国見の子(チャレンジ！)(夢に向かって)(笑顔)』の姿を共有

学校教育目標「チャレンジ！ 夢に向かって ～地域と共に 笑顔の「国見の子」の育成～」の達成に向けて、児童・保護者・地域・教職員が、目指す「国見の子」の姿を共有できる。
※学校運営協議会の複数回開催や熟議の実施

具体的な課題に対して揃える

- ①「チャレンジ！ 夢に向かって」をキーワードとして
夢に向かって具体的なめあてをもつ（児童個々で、学級で）
- ②「笑顔の」をキーワードとして
一人一人がいつも笑顔で輝いている



— 共通実践するための手立て —

- (1) 特別な支援を要する児童への対応「児童個々に寄り添う」
 - ・児童を語る会の充実 ※中学校SCやSSW等の外部講師活用
 - ・個別の指導計画等の見える化
- (2) 低学年の指導「低学年のスタート支援」
 - ・縦割り活動等の充実（自分の役割を果たす楽しみと他のために働く喜び）
 - ・良質な集団活動が体験できる機会の計画的な提供 ※PA出前講座の活用

6 学校教育の活性化等に向けて

「大仙教育メソッドによる学ぶ力の推進」

- I ICTを活用した学びの充実
 - ※GIGAスクールアシスタントを活用した多様な学び
- II 小学校の要請に応じた中学校教員の乗り入れ授業
- III 授業における「太田モデル」と「太田型家庭学習の手引き」を活用した学力向上への取組
- IV 中学生による小学生への読み聞かせ活動

— 特色ある教育活動 —

- 1 表現力・達成感・自己肯定感を育む全校音楽劇への取組（17年目）
 - ・オリエンテーション、オーディション、稽古
 - ・プロの人材の活用（わらび座脚本家・劇団演出家等）
 - ・「ふるさと太田会」との連携
 - ※キャリア教育の視点を重視したふるさと教育の推進
- 2 地域人材の活用及び地域行事への参加、先人教育の充実
 - ・CS（コミュニティ・スクール）と「地域学校協働活動」の充実
 - ※学校運営協議会の複数回開催、熟議の実施、国見ささら、太田音頭、全校米作り体験、太田の火祭り、祖父母環境保全隊
- 3 大仙メソッド太田中学校区推進連絡協議会（年2回開催）
- 4 小・小連携、小・中連携事業の充実（3校合同事業の実施、中学校職場体験の受入等）
- 5 その他
 - ①読書活動の推進
 - ・図書館団体貸し出しを活用した特設コーナーの設置
 - ・小学生ビブリオバトルの開催
 - ②「国見っこなかよしタイム」の活用（個及び縦割り班での一斉学習）
 - ③校長による定期的な学習ノートチェックとPTA参観日の「一人勉強ノートコーナー」の設置
 - ④詩の暗唱へのチャレンジ
 - ⑤体力づくり 体育的行事等の充実

— 教職員研修 —

- 1 「学校スタンダード」を児童と教員が共有し、学校体制として授業実践する。

研究主題 主体的に考え、共に学ぶ児童の育成
～自分の思いや考えを伝え深め合う授業を通して～

- 2 共通実践
 - ①基本的な学習習慣の確立（「はい」「さん」「です」の意識付け／学習中の座り方・姿勢／発表時は椅子を入れずに横に立つ／ハンドサイン）
 - ②見通しと振り返りの習慣化＋考えを共有する時間の確保
 - ③発表意欲、思考意欲を起こさせる発問の工夫 ※「質問できる」の重視
 - ④複式学級の授業研究
- 3 園・小・中連携による他校の校内研修等への積極的参加

— 業務改善の視点から —

- 1 休憩時間の確実な確保（給食指導のグループローテーションの実施）
- 2 生徒指導対応への外部連携を含む管理職の実務としての関わり
- 3 複式学級への協力体制構築（一部教科担任制等）
- 4 前年度同時期との比較で「10分早い退勤」を励行
- 5 年次等休暇の取りやすい職場環境づくり
- 6 職員間の親和的な雰囲気醸成と管理職による業務への意味付け（価値付け）
- 7 副主任（副担当等）配置による業務の効率化と負担軽減（引き継ぎを含む）

「太田地区として」

- I 会議の削減 → 共有フォルダ・チャットの活用「会議代替」「指導案・共通教材等」
- II 地域学校協働活動推進員との連携
- III 太田地区ノー残業デイ

揃える

— 不祥事根絶の視点から —

- 1 不祥事防止対策委員会の設置
 - ・職員会議において全職員により各月の重点項目を確認する。
- 2 研修会の開催
 - ・不祥事防止ハンドブック（改訂）を活用した事例検討会を開催する。
- 3 職員間での対話の重視
 - ・笑顔の絶えない、職員室の親和的な雰囲気醸成に管理職が率先して努める。